



KENMEI GAKUIN

2022年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

令和四年度(2022 年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1、本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—

カトリックの精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き、人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

自らが選び、取り組み、何事にも挑戦し続ける子ども

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1、宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	・シスターの話を聞き、行事について理解を深めたり、身近にいるお友だちや家族を大切にする気持ちを学べた。また、シスターが神さまに仕えようと決めた経緯や“従順”という姿勢を直接知ることが出来た。 ・毎日、朝や昼食時、帰りの祈りに取り組み、自分の言葉で共同祈願を考え、祈りの集いに参加した。
2、自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	・個々の様子を観察や記録をとり、適切な援助ができるように全職員で共通理解し、指導にあたった。 ・子ども一人ひとりが存分に興味のある活動に取り組むことができるように、各学年の発達段階に応じた環境を整え、適切な教材を提供したことで、集中して取り組む姿勢が身に付き、達成感を味わう姿が見られた。
3、未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	・未就園児クラスでは子育てのサポートを行い、幼稚園と同じように生活を行うことで入園前の準備期間になるようにした。満3歳児クラス入園時には、保護者や子どもが安心して入園できるように導入保育を行う。また、低年齢に応じたモンテッソーリ教材を手作りし、家庭でも実践できるよう工夫した。

4、英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ、楽しみながら学んでいる。	・タブレットを使って、一人ひとりが意欲的に参加することで英語をより身近に感じることが出来た。 ・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように、個人のテキストを使って英単語に慣れるようにした。また、習った英単語や英語の歌や英語劇を発表会で披露する機会を設け、子どもたちの自信に繋がり、日常生活の中でロずさんで楽しみ、学ぶことができた。
5、教員は資質を向上させるため、研鑽する。	・モンテッソーリ教育では、意欲的に学べるよう教員の学びたい分野を聞き取りながら、園内研修を行い、教具の練習の機会を設けた。 ・毎月の職員会議では、子どもの様子を振り返り、教員としての観察力を高めている。
6、保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。	・新型コロナウイルス感染防止のため、行事の中止もあったが、子どもたちの様子を具体的に伝えるため、SNS を積極的に活用し保護者の満足度に繋がるように工夫した。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染防止のため、様々な教育活動の実施方法を再度見直しながらの実施となった。できる限り、保護者の方にも来園していただき、子どもたちの様子を直接観ることが出来るよう考慮し、保護者の満足度を高めた。園全体で一つの行事を仕上げるなど、子どもたちも自分たちの姿を観てもらえることで意欲的に行事に取り組むことが出来た。また、幼稚園生活の中で友だちと一緒に学び合い、充実した日々を過ごすことができるように保育内容のカリキュラムを立案したことにより、子どもは自立し、さらに充実感を味わう姿が見られた。

私たち教員は、今後も子ども一人ひとりをよく観察し、それぞれの発達段階に即した個別の指導を行っていきたい。子どもたちが安定して幼稚園生活を送ることが保護者の満足度に繋がると考えられる。さらに、教職員の資質向上のため、様々な研修の機会を計画し積極的に設け、自己研鑽に努めていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	・ 日常の生活や行事を通して子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。 ・ ケース会議を設け、一人ひとりに応じた援助内容を共有し、全職員で指導にあたっていく。
保護者への対応	・ 毎学期に実施の幼稚園集会や、送迎時に保護者の方々とコミュニケーションをとる機会を電話連絡や SNS など工夫する。
体力の増進	・ 天然芝でおもいっきり走るなど、自由あそびの前にクラスでの集団遊びを定期的実施する。雨天時では、ホールにあるボルダリングを活用し、積極的に体を動かすようにする。

宗教教育	・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、他者に思いやりの気持ちを育むようにする。また、活動内容を保護者にも伝え、理解を深めていくようにする。 ・学内研修、カトリック研修を通して、教員一人ひとりが建学の精神に基づいた保育をする。
------	---

6 学校関係者の評価

別紙の通り

7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2022年度 賢明学院小学校 学校評価PDCA

学 校 名:賢明学院小学校
評価責任者:校長 板東 正

	Plan		Do	Check		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	建学の精神を土台にした教育をすすめる	① 祈りを通じて神への畏敬の念を養う教育活動ができている。	① コロナ禍の中で制約があるが、感染防止を十分にとった上で、できる限りの実践を行い、ミサや祈りの集いなどで、元通りの進行を行い、分かち合いや共同祈願などを通して、祈る習慣をつけさせる。	① 感染対策をとりながらではあるが、祈りの集いを軸に、行事が通常に近い状態で実施できた。お祈りを大切にしているという数値が向上しているのは、その効果だと思われる。	目標 100% 到達 90%	① 児童に対する教育活動が、より充実したものにするためには、携わる教員側のスキルアップが必要。次年度は、研修を企画し幅広いアプローチができる体制を整える。
		② 創立者について学び、帰属意識を高める教育活動ができている。	② 宗教の時間や祈りの集い、聖母月の集いなどを活用し、カリキュラムに基づいて、聖マリーリヴィエについて学びを深め、相互協力のもと学年、学級の仲間と心のつながりを強めさせる。	② 創立者についての学びに関して、高学年ほど、よく知っているとは思わないという割合が高くなっていることから、帰属意識が熟成されているとはいいいがたいと思われる。	目標 100% 到達 60%	② この部分においては、帰属意識は、賢明学院に対しプライドを持てるかという意識につながる重要な活動となる。今一度、研修を通し、教育活動の中で、何に一番エネルギーを注がねばならないかを共有する。
		③ 感謝と奉仕の精神を培う取り組みが各行事に組み込まれている。	③ 全ての行事を祈りの形式で行い、自ら感謝する心や人の役に立とうとする意識を高め、言葉や行動に表せるようにさせる。宗教委員会やリヴィエジュニアの児童に率先して活動を促し、児童主体の取り組みをさせる。	③ あらゆる行事には、祈りの大切さを意識する実践が行われている。特に児童にとって、クリスマスは身近なイベント。楽しみながらみんなの役に立つ活動が効果的に行われた。	目標 100% 到達 85%	③ 授業も行事も、自ら積極的に行う気持ちを養う必要がある。いまだに、やらされているという思いの方が強く;感じられるところがあるので、アプローチの仕方に工夫を加える。
		④ 式典や行事を通じて宗教心を培う活動ができている。	④ 計画性をもって宗教行事を企画・推進し、提案時点から緻密に準備し、実行する。それをもとに各学年、各クラスで諸活動に生かし、宗教心を培う。	④ 一つ一つの行事に関しては、とても準備に時間をかけ取り組んでいる。ただ、単発的な印象がぬぐえない。次へのバトンが足りない。	目標 100% 到達 75%	④ 計画の中に、年間に取り組まれている行事の中で、いかにつなげて活動していくかを検討する。
2	安心できる学級の実現	① 楽しい学校生活を送ることができるよう児童への支援ができている。	① 週一回の学年会議に加えて、学年主任連絡会を設け、学年間調整、校内調整を密にする体制を取り、一人一人のサポートを強化する。	① 学びの場が、荒れていては楽しいどころではない。その点においては、どのクラスも聞く姿勢がとれているが、ただいじめアンケートではいろいろと声があがっている。	目標 100% 到達 75%	① 今後も児童の声に、広くアンテナを張る実践が必要。また、声に対して初動対応を誤らない、学年での複数でのチェックをこころがける
		② いじめ撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	② 連絡帳や電話等を活用して、児童の様子に関する情報共有を保護者で行う。「けんしょうアンケート」の記述をもとに学年、学級で気になることを見逃さず、先手を打って生活指導をすすめる。	② 児童とのコミュニケーション手段は、いろいろあるが、アンケートに頼ることなく、実際に面談の機会を通した情報交換が必要。問題が起こってからの対応が目につく。	目標 100% 到達 75%	② 人と人との関りから生まれる様々な事象に対しては、やはりアナログでの対応が不可欠。個人面談月間などを企画し、事前事前の指導をもっと可能にする。
		③ 衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。 食に対する感謝の心を養うことができている。	③ 手洗いの励行、アルコール消毒もすすめ、給食エプロンを正しく着用させ、配膳から給食終了まで、完全黙食を徹底させる。「食べられる」ことへの感謝を込めて残食を減らすように指導する。	③ 食前食後のお祈りは、習慣という非常に強い力を活用しているので、効果が表れている。消毒に関しても、習慣が身に付きつつある。	目標 100% 調達 85%	③ コロナ感染防止の取り組みにより、かなり意識が高まっているが、次年度はマスクの奨励も形をかえることから、マンネリも含め、常に意識させる声かけは必要。

3	教師の指導力向上と授業改善	① 国語・算数を中心とした授業の質の向上を目指して授業研究をしている。	① 算数科で研究授業を実施し、事前研究、事後研究会等で研究を深めるとともに、全員が公開授業を実施する。私小連の研究会に参加し、他校の取り組みも学ぶ。	① 研修授業は、一つの自信につながる取り組みであるなら、必要性を感じる。欠点を指摘することに重点が行われるような内容なら、改善が必要。	目標 100% 到達 90%	① 失敗しても構わないので、独自のアプローチをもっと模索していく。ほかの人の取り組み内容を、そのまま取り入れてもうまくいくはずがない。自己研鑽に力を入れる。
		② 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化する。	② 従来通り、ノート指導も充実させると同時にパソコンを使って課題に取り組んだり、発展的な学習を進めたりして、ICTスキルの向上もめざす。	② 宿題も量ではなく自宅学習の習慣化が目標。ノート指導においては、ICT を活用することで効率化が図られている。	目標 100% 到達 85%	② 自宅学習の習慣化は、中学・高校になってもつながっていくものなので、その重要性を、常々意識させる声かけを工夫する。
		③ 国語力算数力を向上させるために、朝のモジュールを活用する。	③ 短時間のモジュール学習ではあるが、適切に評価を与え、学習意欲を高めさせる。自ら評価をさせ、能動的な学習活動をすすめられるようサポートする。	③ 短時間ではあるが、効果的に機能している。読み、書き、そろばんは、国語力、算数力の重要性を昔から意識されて作られていることば。基本の「き」。	目標 100% 到達 95%	③ 朝の時間の活用は、ここもしっかり検証する時期になっている。時代の流れ、環境の変化も加味していく。
		④ 情報機器を活用し、効果的な授業を展開する。	④ 一人一台のタブレット端末を、さらに活用させ効果的な活用をめざして、全体研修、学年会での研究をすすめる。	④ タブレット端末の利用が、効果的に行われている。1年から貸し出す形ではあるが、実践されていることはとても評価できる。	目標 100% 到達 95%	④ タブレット端末や他のICT器機を効果的に活用するため、教員研修を実施する必要がある。
		⑤ 新学習指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標達成に努めている。	⑤ 昨年度のカリキュラムを修正・発展させ、児童の実態に応じた指導計画を立て、実践する。年度末に反省を行い、次年度への改善につなげる。また、対外研修、伝達研修につとめる。	⑤ 教務を中心に、指導実践が行われている。指導要領に沿った内容も、行事も教育効果をあげるとても重要な部分。時間数とのせめぎあいがつづく。	目標 100% 到達 85%	⑤ 授業日数を次年度は、増やすかたちをとる。夏休みが短くなるが、行事をより充実させ、学校で過ごす時間をより有意義なものにする。
		⑥ 児童自ら考え発言し、分かりやすい言葉で伝え合うことができる授業が展開されている。	⑥ コロナ禍で留意しつつも、少しずつグループ活動、小集団での学びをすすめ、伝えあいやすいムード作りにつとめる。共に学ぶ意識の定着をはかる。	⑥ 自主、自立の習慣は、チャイムがない学校として、自然と意識されており、このベースの効果は大きい。そこを伸ばすアプローチは、学年に応じた内容が要求される。	目標 100% 到達 80%	⑥ 児童にとっての身近な目標は、高学年の児童。自ら動くという見本を、児童会を中心にもっと活発化させるため、指導体制を強化する。
		⑦ 学級経営力向上のため、教室の整理整頓と朝の会・終わりの会の二点について指導力を高める。	⑦ 児童が主体的に、進めることができる意欲づけと、実践力をつけるため、クラスで目標を立てて片づけ整え、朝の会進行、終わりの会進行を協力して行う学級経営を行う。	⑦ 整理整頓、この作業は低学年から徹底する必要がある。そのためには、教員がまず率先垂範の動きを常にとる必要がある、それは職員室でもいえること。	目標 100% 到達 80%	⑦ 整理整頓に関しては、誰が見ても一目瞭然の内容。日々のチェックを怠ってはならない。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活 ＜基本的習慣を特に充実させる＞	① 賢明の挨拶、立ち止まって挨拶することの大切さを指導する。	① 教員が実践し、児童がすすんでしようと思う挨拶を身に付けさせる。伝統である“Stop, bow and smile”を義務的ではなく、すすんで実践できるよう、児童会が主体となって広げられるようにする。	① 立ち止まる挨拶ができている児童は、65%ほど。そのなかでも、やられている気持ちが態度にあらわれているものもいる。心の教育に対し、まだ力が及んでいない。	目標 100% 到達 60%	① 立ち止まる挨拶のすばらしさを、しっかり理解させることに、もっとエネルギーを注ぐ必要がある。心の余裕は、命を守ることにもつながることを意識させる。
		② 集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	② ノーチャイム制の実施で、ずいぶん進んだが、引く続き沈黙移動や廊下、階段での静かな移動を心がけるよう、発達段階に応じて、学年で指導する。	② 集団での沈黙移動は、コロナ感染予防を口うるさく言っているためか、逆に発散するはけ口がなく、難しい実践となっている。	目標 100% 到達 60%	② このような指導は、メリハリを意識させることで効果が表れる。日常の生活に戻りつつある次年度には、達成率があがらねばならない。
		① 通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③ 警察に依頼しての交通安全指導を行うとともに、そこで学んだことをお昼の放送や全校朝礼、児童朝礼などで全校児童に高学年児童が伝えられるようにさせる。	③ 約束事を守ることは、命を守ること。一つ一つの学びの行為が、命を守る行為につながることを教える、基本である。	目標 100% 到達 85%	③ この指導に関しては、比較となる例をあげて具体的に組みこんでいく。自分の命を大切にする意識をつよく持たせる。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①コロナ禍の影響はまだ受けるだろうが、少ない機会を有効に使い精神や方針を伝えていく。 ②行事の開催も未確定だけに、日常生活で人間関係を作り、絆を深めるよう指導する。 ③共通の苦難を経験したことにより、自分ファーストでない生き方を身につけさせる。 ④クラスだけでなくクラブでの生徒間のすれ違いを初期の段階で発見し解決していく。	①行動制限も緩和し保護者集会を行うようになったが全体で94%と昨年度と同じ。 ②Hは前年度と同じ。Mは全体で5.6Pポイント下がった。コロナ禍が長引き人間関係が希薄になっているようである。 ③全体で94%だったが、M3は97%、H2は98%、H3は98%と高い数値だった。 ④全体で1P下がった。コロナ禍が終わりつつあるが、感染は広がっている影響が大きいと思われる。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ④95% ◆実際到達度 ①94% ②89% ③94% ④92%	①保護者会やクリスマスタブローを通じて、建学の精神や教育方針を伝える機会をもつ。 ②日常生活で絆を深めるように指導し、悩みを抱えている生徒を早期に見つけ話を聞く。 ③人を思いやる生き方が、自分の人生を豊かにすることを気づかせる。 ④いじめや小さなトラブルを早期発見し、人間関係で悩む生徒をしっかりとフォローする。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①近隣、地域の人たちにも挨拶できる生徒を育てていく。 ②ルールを守るはもちろんのこと、より高いマナーが身に付くよう指導する。 ③学年間クラス間で指導が数字にも表れるので、指導にばらつきがないよう確認し生徒に対応する。	①「賢明の生徒は挨拶が良くできている」保護者の評価が中高で92%（昨年88%）。中学は高校より10P高い。 ②生徒の評価は中高で89%（昨年93%）。高校が中学より5P高い。 ③「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が89%（昨年は91%）。学年によってばらつきが大きく、その幅は84～95%と10Pもあった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①92% ②89% ③89%	①コミュニケーション能力を高められる「挨拶」についての理解を深める指導を行う。 ②生徒自らが意識を高められるように、自己チェックを定期的に行う。 ③指導のばらつきがなくするために所属学年に関係なく指導していく。教員から生徒への声掛けや指導のラインを共有していく。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①最初だけでなく、授業時間中生徒が集中できるよう授業に魅力を持たせる。 ②授業公開の新しい動きさらに拡大し、お互い参観をして授業の向上を目指す。地道な前進を心がける。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観する機会を増やし、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。	①生徒の評価が93%、教員は92%と昨年を下回る評価であった。特に教員は5%下がるという結果であった。 ②板書や資料に対する生徒の評価は96%と高い。教員自身の板書項目の評価は90%で、昨年より上がった。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は、88%と微増した。教員自身の評価は昨年と変わらず85%だった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①93% ②96% ③88%	①生徒一人ひとり丁寧に指導し、全員が集中できるようにする。 ②昨年の改善策を実施し相互参観をし、授業の向上を目指した。来年度も続けて質の高い授業を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践するための研鑽を続け、授業に取り入れていく。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①全体に対してだけではなくそのクラスに合った進路講演会などを実施して、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②カリキュラムを変更して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③入試状況の変化をしっかりと見極め、生徒たちの不安を解消しながら指導する。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは、89%と減少した。中学では86%、高校では92%であった。中学では、中3が89%と一番高かった。 ②全体が93%と2P減。例年、中学の評価が高校よりも低くなる傾向がある。中学では91%、高校では96%となった。最も高かったのは、高1で、97%であった。 ③ 継続中	◆目標到達度 ①95% ②95% ③国公立15名など ◆実際到達度 ①89% ②93% ③継続中	①進路行事の意図を確認するとともに、なるべく早い段階で進路に対する生徒個別の目標を定め、それに向けて教員が協力して指導する。 ②授業内容については、対応済みと思われるので、教材や課題の意図を説明するなど生徒へのアプローチにも力をいれていく。 ③入試情報を確実に収集し、生徒たちの不安を解消しながら指導する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。	①その日に伝えることはその日に電話することをより徹底させ、保護者との連絡を密にする。	①98％の教員が家庭へ必要な連絡は迅速に行っていると考えているが、保護者評価は88％で、中学は5ポイント上がったものの高校は2ポイント下がってしまった。	◆目標到達度 ①95％ ②95％ ③90％	①保護者と意思の疎通が図れているかを常に意識し、基本丁寧な連絡を心がけ、必要な連絡が抜けないうち注意する。 ②今後も関係部署で情報を共有し、チームで対応することを心がけ、生徒・保護者ともに安心して通える、通わせられる学校にしていく。 ③これからも報告・連絡・相談がしっかりできる教員集団として、常に一致団結して教育にあたる。
		②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。	②管理職、学年団、スクールカウンセラー、養護、学年主任会など緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。	②保護者からの相談に対する満足度は昨年 91％から 94％に3ポイント上がった。教員がチームで動けている 97％から関係部署が連携して問題に対処できていると思われる。	◆実際到達度 ①88％ ②94％ ③92％	
		③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	③生徒たちが教員同士の一致をさらに実感できるよう、教員が同じ方向へベクトルを向け協力して問題の解決を図る。	③教員同士の協力について、生徒評価は昨年度高校の評価が低く87％だったが今年約 90％まで上がり、中学も 1％上がったので、全体として高評価となった。		
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。	①今後もコロナ禍のために人間関係に制限がかかる中、生徒の小さな変化に気づきすぐに対応する。	①「良い人間関係を築けている」生徒の評価は 96％（昨年 95％）。中学は 2 学期末時点の笑顔調査では、96％が「1 日 1 回笑顔になれる」、92％が「学校が楽しい」とこたえた。	◆目標到達度 ①95％ ②95％ ③95％	①月ごとに 1 回のペースで笑顔調査を継続する。また、高校でも笑顔調査を行う。 ②日ごろから生徒とのコミュニケーションを多くとり、人間関係を築き、教員がチームで生徒を育てられるような環境を作る。 ③生徒の心をつかめるように、休み時間や昼食時などの授業以外の時間でどのような表情で生活しているのかを把握するように努める。
		②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。	②自分たちが普通だと思っている言葉遣いを見直し、改善していく。	②「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が 89％（昨年は 91％）。学年によってばらつきが大きく、その幅は 84～95％と 10P もあった。	◆実際到達度 ①96％ ②89％ ③95％	
		③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	③コロナにも負けず、生徒たちが安心できる学校作りを協力して取り組む。	③「自分の居場所がある」生徒の評価は中高 95％（昨年 96％）。大きな変化は見られないが高校は中学より 5P 高い。		
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。	①今年こそ体育大会、秋麗祭、クリスマスタブローなどの行事を実施し、生徒主導で作り上げていく。	①生徒の評価は 9 7 ％と微増。クラブ活動は新型コロナによる制限を受けず活動できたことが大きい。委員会活動では執行委員会の提案により、行事で積極的に参加する機会をつくり、日頃の活動でも活動日を設け積極的に活動した結果だと考えられる。中学の評価は昨年より 1 ％減。月一回の委員会活動で目標を設定したものを数値化する活動を行っているが少し慣れてきたこともあり、新たな取り組み方を模索したが生徒にはばらつきが出た。また、行事での委員会活動としての参加が高校生の活動が主になっていることもあり中学の委員会が実質参加できていない。	◆目標到達度 ①95％ ②85％ ③90％	①これまで通行事で委員会が活動できる場をつくることや、毎月の委員会活動の中で実際に活動する場面をつくり、生徒に主体性をもって取り組ませる。 ②クラブ活動の中でも積極的にボランティア活動を行うよう呼び掛けるとともに、HR などの時間を利用して学校全体の活動として時間をつくることや、長期休暇を利用してボランティア活動に参加する。 ③課外活動として生徒が主体性をもって活動できるような環境をつくる。
		②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。	②実践的なボランティア活動を教員が共に始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動へつなげる。	②高校の生徒の評価が 7 8 ％、中学の生徒の評価が 7 7 ％とアンケートの中でも他の項目と比較しても評価は低い。M3 が最も評価が低く 6 0 ％台になっている。コロナ禍で積極的に活動ができなかったこともあるが、ボランティア活動として時間が確保できていない。	◆実際到達度 ①97％ ②78％ ③87％	
		③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	③限られた時間内で生き生きと充実したクラブ活動ができるように、活動を見直し工夫していく。	③クラブ活動に対する保護者の評価は 8 6 ％で昨年よりも 2 ％減。生徒の評価は高く、保護者の評価が低いのは何か見えていないところに原因があるのかもしれない。中学は昨年より 8 ％増。コロナによる活動制限が減ってきたことが大きいと考えられる。		
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。	①各教科で大学入学共通テストの分析を行い、それを授業に生かしていく。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は 71％と 10％増となった。コロナ禍が終焉に向かっているが、研修会への参加率は回復していないのかもしれない。	◆目標到達度 ①90％ ②95％	①校内の研修や Find アクティブラーナー、進路情報の発信など校内の取り組みを継続するとともに、外部研修会へも積極的に参加する。 ②オンライン授業で培った力を普段の授業にも活かし、常に授業を進化させられるよう努力を重ねる。
		②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。	②オンライン授業で得たものを対面の授業にも生かし、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。	②授業内容を改善しているという教員の評価は 95％であった。例年高い評価が続いている項目である。	◆実際到達度 ①71％ ②95％	

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	入学前の個別相談・入試相談を通して生徒の学習状況や家庭の環境などの客観的事実を知る。さらに一人の生徒の個別相談・入試相談の担当教員を分けて様々な角度で生徒を理解する。 個別の生徒情報シートを活用し、生徒一人ひとりの存在を大切にする指導を今後も継続していく。養護教諭・スクールカウンセラーとも連携を深め、さらなる生徒理解に努める。	①全体の肯定的な評価が96%であった。昨年より4ポイント上がった。 ②昨年より1ポイント増えたが、とてもそう思うと答えた生徒は32%で昨年より9ポイント下がるという結果となった。 ③全体の評価が96%で、昨年度より3ポイント上がった。保護者の評価は89%（昨年は88%）であった。 ④全体で87%と昨年より3ポイント減。保護者の評価は88%であり、通信制の生徒・保護者にとって最も期待する項目である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①96% ②88% ③92% ④87%	生徒を把握するための日常的ミーティングを行い、多様な背景の課題の一因として考えられる生徒の発達課題や健康問題、家庭的背景等の状況について整理する。 個別懇談・三者懇談を計画的に行い教育活動の理解を深める。 定期的に養護教諭スクールカウンセラーと通信制教員の連絡会を行い生徒の理解を深める。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髮・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	生徒の入学前からの状況を全教職員が理解し指導における統一を図る。 新入生については、オリエンテーションにて様々な症状（起立性調節障害や過敏性腸症候群など）を持つ生徒が入学していることを理解させ、自己受容、他者理解をすることにより、思いやりのある気持ちを育てる。	①全体の評価が95%ではあるが、とてもそう思うと答えたのは20%であり、昨年より7ポイント減となった。 ②全体の評価が92%であり、昨年より微増となった。保護者は93%であった。 ③全体の評価が94%であり、生徒と保護者、教職員のポイントの差はほとんどない。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①95% ②92% ③94%	あいさつについては、教員から積極的に行いHR活動等で生徒同士でもあいさつできるよう指導する。 生徒の行動を理解するために、入学前からの個別相談や入試相談などで学校生活におけるルール・マナーについての情報を生徒・保護者に伝え入学後の生徒指導に役立たせる。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	スクーリングについては単位習得のための大切な時間であることを生徒・教職員で共有する。 学習サポートの内容を充実させ、生徒の学習意欲の向上を図る。また、英語検定については各級ともに受験者数を増やし2級合格を目指し、進路実現していく生徒を育てる。	①到達度は92%を超えてはいるが「とてもそう思う」と答えたのは39%で昨年より17ポイントの減となった。 ②生徒の評価92%、教職員の評価は96%となり、昨年を下回る評価であった。生徒は1ポイントの微減であった。 ③全体の評価は97%であり教職員評価ともに高い評価となっている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①92% ②93% ③97%	スクーリング時間を守るよう徹底し、教職員同士での意識を再確認する。 習熟度別授業や学び直しを通じて、基礎的な知識を伝えた後に、知識を整理する時間を意図的に作るなど生徒の学習状況に応じた内容にする。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	進路講演会・進路フェスタ・ホームカミングデーなどの生徒・保護者へのアプローチの内容を見直す。保護者対象の進路行事を通じて、保護者と連携し進路指導をすすめる。 進路情報を共有するための「進路だより」を発行し、進路についての正しい意識を学校・生徒・保護者で共有する。	①この評価項目は毎年75%前後であったが、今回は90%を超える結果となった。 ②到達度は81%で2ポイント増となった。生徒の評価結果は7ポイント増であるが、保護者は1ポイントの微増となった。 ③全体の評価が85%であり、昨年度より3ポイントの増となった。学年に応じた進路指導を継続しており、進学への意識が徐々に高まっている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①90% ②81% ③85%	進路指導部が中心となり、生徒の進路希望と決定および進路選択の要因を分析し。 卒業生の状況報告会（ホームカミングデイ）を充実させて、在校生の意識を変える機会とする。 担任による個別懇談などを通して個別サポートを充実させ進路実現ができるよう意識を高める。 進路だよりは定期的に発行し、進学における目標設定や最新の情報なども積極的に伝える。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	新入学生と転入学生の生徒情報シートについては、通信担当の教職員がいつでも共有できるように設置し生徒の指導に役立てる。 kenmei.infoについては新入生・転入生ともに全員登録させ、学校・生徒・保護者が様々な情報を共有する。	①全体評価が91%であり、特に保護者は96%の高い満足度となっている。 ②全体の評価が97%となり最も高い評価となった。特に保護者からの相談に、適切に対応しているの項目は98%となった。 ③生徒の評価が91%、保護者の評価が93%であり、毎年高い評価を得ている項目である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①91% ②97% ③92%	新入学・転入学生については生徒・保護者の理解を深めるための面談結果を全教員が理解できるよう新たな生徒情報シートを作成する。 担任と保護者との連携に加えて kenmei.infoは入学時に必ず登録させて綿密な連携を図り情報を共有する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすること やかで温かい生徒対応 をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	入学前の個別相談については学校内外を問わず生徒の理解を深めるために全教員を対象とする。三者面談については、前期を必須の面談として、生徒がより安心して学校生活を送ることができるようにする。 学習進度表や模試の結果などを通じて、客観的事実による問題や課題を解決する。その中で、様々な気づきや発見させることにより、学習へのモチベーションを高める。 養護教諭・スクールカウンセラーの情報を発信するとともに、報告会などを通じて教職員との連携をさらに深める。	①昨年より 3 ポイント減となった。生徒の評価は 86%であり例年、安定するようになっているが保護者も 88%であり目標には 2 ポイント到達していない。 ②昨年 15 ポイント増の結果となったが、今年度はさらに 3 ポイント増の 92%の結果となった。 生徒の評価は 86%であり安定してきた。一昨年は 69%、昨年は 94%と増減の幅が大きい項目ではあるが、昨より 2 ポイント減となった。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②92% ③92%	入学前の個別相談・入試相談などを通じて生徒の家庭環境や学習状況などを理解する。 面談にて得た情報については、教職員同士で生徒指導の充実を図るために、養護教諭・スクールカウンセラーの情報を共有するとともに、報告会などを通じて教職員との連携をさらに深める。 生徒の居場所づくりのために、教室などの環境の充実と生徒の内面を理解するための定期的な三者面談と日常的に個別面談を行う。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	社会・自然・環境をテーマに、望ましい集団活動や体験的な活動を計画し、生徒一人ひとりの個性を生かし、実際の社会で生きるための社会性を身に付ける活動を実施する。 事後指導シートを活用し、教職員との対話を通じて、活動したことを言語化し自己評価することで、自らを振り返り、考えを整理し、内面化を図られるようにする。 キャリア教育の視点として大学や専門学校および地域の関係性を強化していき、卒業後の自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。 新型コロナウイルス感染予防になどにより活動中止の場合は、地域のボランティア活動に内容を変更し、公共の精神など社会生活を送る上で必要な資質や能力を体得させる。	全体的には 96%であり比較的に高い満足度の結果となった。生徒の評価のうちとてもそう思うが 21%であり、昨年より 18 ポイントの減となった。 全体で 78%の結果となった。昨年は 68%であり 10 ポイント増となった。新型コロナウイルスで中止となる特別活動はなかったが、学校行事や式典行事などでボランティア活動を行う生徒が増えている。教員の清掃活動などボランティアの意識については 75%であった。 全体の評価が 98%であり、今年度のアンケートで最も高い結果となった。特に保護者の評価で「特別活動等での指導は生徒を育てることに努めている」では 94%。「学校行事（遠足、芸術鑑賞会）の内容は充実しているでは 97%の結果となり 3 ポイント増となった。コロナ禍の影響で活動内容に制限のある中での特別活動であったが保護者の理解が得られたと考える。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①96% ②78% ③98%	特別活動の満足度は非常に高く、本校の教育活動の長所となっていると考える。 望ましい集団活動や体験的な活動内容を引き続きを計画する。 卒業後も社会でコミュニケーションの向上や社会性を身に付ける活動を実施し、生徒が主体的に取り組むよう指導する。 社会・自然・環境のテーマに芸術を加え、さらなる進化を目指す。引き続き事後指導シートを活用し自己評価を行い、生徒自らが振り返り、考えを整理し、生徒の心身が成長するよう担任が積極的に関わる。 各クラスでの活動の中でも清掃活動などをボランティア活動と位置づけるとともに、キャリア教育の視点としての活動を計画し、社会で必要となる能力や態度を育成する。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的に行われている。	個別相談会や合同相談会を複数の教職員で行い、生徒や保護者の対応および理解について教員同士でチェックする場を設ける。お互いにアドバイスし合い、多面的理解による生徒指導や保護者支援や伝える力を身に着ける。 社会において必要とされる通信制高校であるため、新たな大学入試制度をはじめとする社会に必要なスキル、物事を成し遂げるために必要な能力、主体的に多様な人々と協力する態度を育成するなど、生徒・保護者にとって信頼を高める教育活動を行う。	全体の評価は 89%であった。保護者の評価として進路における情報発信についてが 81%であった。 昨年より 4 ポイント減の結果となった。進路指導について改善を継続しているが目標到達度には届かず、毎年ポイントの増減を繰り返している。 88%であり昨年より 4 ポイント減となった。保護者は「カトリックミッションスクールとしての建学の精神や教育方針」の評価は 96%であるが「保護者が学校に来る機会・行事を設けている」については 73%の評価となっている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①89% ②81% ③88%	外部研修会に参加し、研修内容を共有するよう継続して取り組む。 スクーリング内容については、生徒の学習状況に応じた内容に進化していくよう見直す。 社会に求められる通信制高校であるために、目の前の生徒の状況を踏まえながら、教育活動は不断の見直しを図る。 生徒の発達段階や地域の実態に即して、教育目標を具現化するための教職員一人ひとりが本校らしい教育活動を行う。

2022年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

<評価委員名>

委 員 名	喜代田 洋志（保護者・卒業生）	藤木 利典（卒業生）	久保 善見（保護者）
-------	-----------------	------------	------------

<委員会実施日>

実 施 日	第1回 5月20日（金）	第2回 2月25日（土）	
-------	--------------	--------------	--

<評価の概要>

幼稚園	新型コロナウイルス感染症の感染収束が見えてきた状況もあり、昨年度に比べて行事については、中止や縮小した開催から、平常開催に近い形で実施いただいていることに感謝している。引き続き、園での感染防止対策をお願いしつつ、行事の平常開催をお願いしたい。
小学校	- 幼稚園と同じく、行事等の平常化が進んでいることに安堵し、感謝している。引き続き感染対策を実施しつつ、学校運営を行なっていただきたい。 - 幼稚園で学んだモンテッソーリ教育について、小学校につながる取り組みができないか。幼稚園で学んだ教育が小学校に引き継がれることで、子どもの成長をより強固なものにできるのではないかと考えている。
中 高	- 指導要領変更に伴い、賢明学院の歴史を学ぶ機会が減っていると感じる。中高に限らず他校種においても、是非とも時間の確保に努めていただき、創立者の精神や想いを子どもたちに伝える機会を増やしていただきたい。 - 秋麗祭は、もっと生徒たちに考えさせ、生徒主導で取り組む方がより良いものになるのではないかと考える。
通信制	賢明学院の通信制高校は、進学率が高いことに併せ、生徒への個別対応も非常によく、高い評価をしている。保護者からの評判は年々上がっており、引き続きご尽力いただきたい。
総 括	- 全校種に共通していることだが、ここ数年、シスターの姿がみられた時と比べて、カトリック色が弱くなってきていると感じる。保護者の中でも、カトリックに対しての畏敬の念を強くお持ちの方もおられ、教職員向けの研修等にて強化を図っていただきたい。 - 子どもが園や学校で何か問題があった際に、園や学校からの連絡については、できるだけ早くいただきたい。また早期発見、早期対応に取り組んでいただき、問題が大きくなる前に収束できるよう努めていただきたい。 - コロナ禍による教育機関への影響が収束しつつあり、学校運営の平常化が進んでいることに安堵している。学校行事は子どもたちにとっても保護者にとっても楽しみにしていることであり、引き続き感染症対策を実施いただきつつ、安全安心な学校運営をお願いしたい。 - 各校種間での連携をより強化いただき、園児・児童・生徒・保護者そして教職員間での信頼関係をしっかりと築いていきたい。何よりも、子どもたちが賢明学院での生活を充実させられることが第一。コミュニケーションを強化し、風通しの良い教育環境の構築に努めていただきたい。 また、以前は各校種にて前期後期合わせて2回の学校説明会が開かれていたと思うが、コロナ禍でしばらく満足に開催できていないことから、保護者の学校園に対する理解が減少していると感じる。以前のように年2回開催をお願いしたい。